

2023 政策研究大学院大学  
公共政策プログラム

# 医療政策コース



政策研究大学院大学  
NATIONAL GRADUATE INSTITUTE  
FOR POLICY STUDIES

## ごあいさつ

政策研究大学院大学(GRIPS)は、1997年に設立されて以来一貫して、日本と世界の現実に即応した政策研究を推進するとともに、国内外のミッドキャリアの行政官等を主な対象として、政策プロフェッショナルを養成するための大学院教育を提供してきました。その一環として2013年度に創設されたのが、「医療政策コース」です。

「持続可能な開発目標」(SDGs)の目標の1つである「全ての人に健康と福祉を」において、「ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ」の達成は重要なターゲットとなっています。わが国は半世紀以上前の1961年に国民皆保険を達成し、その後も医療制度を拡充してきました。しかし、今日、人口構造の変化、経済構造の変容、医療技術の革新など、医療を取り巻く環境は激変しています。またCOVID-19パンデミックは、医療にさらなる課題を突き付けています。

こうした変革と激動の時代においては、物事の本質を捉えつつ、未来から逆算して現在の課題を明確化し、果敢にそれに取り組む姿勢が求められます。高齢者人口がピークを迎える一方、労働力人口は激減する2040年頃を見据え、地域包括ケアの実現を目指し、各制度をダイナミックにモデルチェンジして、持続可能性を高め、かつレジリエンスを強化していく必要があります。

そのためには、医療やその関連する政策分野に貢献する、優秀な人材が養成されなければなりません。地方自治体においては、人口動態、医療機関等の分布、地理的特性など、地域の実情に合った施策がタイムリーに講じられる必要があります。「医療政策コース」では、医療とその関連政策に係る深く広い知識を身につけるとともに、それぞれの立場で高度な分析・構想・企画力をもって政策を立案し、医療関係者や住民といったステークホルダーの理解を得ながら果敢にそれを実現できる人材を養成します。

GRIPSのキャンパスは東京都心・六本木に位置し、世界の約60カ国と地域からの留学生が学んでいます。また、日本人学生も多様なバックグラウンドを有する、将来を嘱望される者ばかりです。こうした環境下で内外の学生と切磋琢磨しながら、わが国に足元を置きつつも広い視野をもった人材を養成するためのカリキュラムを用意しています。世界の先頭を切って超高齢化が進む日本の医療改革を現場で担う。またその取組みを世界にフィードバックする。そんな意欲にあふれる方々が門を叩かれることを期待しています。

## 修了生の声

滋賀県 総務部 税政課 主任主事

村岡 佑哉 (2017年度修了生)

医療政策コースでは、専門知識豊富な先生やゲストの方から医療政策の変遷や最新の動向を学べるだけでなく、医療経営やデータ解析手法等といった分野まで幅広く学ぶことができました。現在担当する県医療計画見直しの業務を担う上で、GRIPSで培った医療に関する知識と多角的な思考が生きています。共に学ぶ学生は地方自治体職員を中心に多職種に渡り、刺激的で充実した学生生活を送ることができました。



株式会社国際開発センター 社会開発部 次長・主任研究員

平野 明子 (2018年度修了生)

国際保健コンサルタントとして途上国で国際協力を行ってきましたが、日本の医療政策をきちんと学びたいと思い受講しました。医療政策コースでは、行政・臨床・研究分野の専門家や調査にご協力頂いた自治体の皆様から、理論から実践まで幅広く学び、地域包括ケアに関する論文をまとめました。途上国での制度・政策の在り方や対策を検討する上でも有意義な示唆を得ることができ、現在の業務にも大変役立っています。



埼玉県 保健医療部感染症対策課 主査

利根川 惇 (2020年度修了生)

医療政策コースは、各分野の第一線で活躍する先生方から多角的な切り口で講義や指導を受け、自身の設定した問題意識にじっくりアプローチできる環境に恵まれています。自身は、感染症対策の地域連携体制について研究を行いました。先生方からの示唆に富む指導のもと、調査手法を設計し、研究課題への解決に向けて政策を組み立てる経験を積むことができました。GRIPSでの学生生活は、政策立案者として極めて重要な経験となると感じています。



### キャンパスで過ごす 密度の濃い1年間



#### 4月～7月半ば 〈春学期〉

春学期では、学究の基盤となるコース指定科目や選択必修科目などを幅広く学びます。多くの学生が必要履修科目の大半を春学期にとることを選択するため、講義の課題等に追われる日々となりますが、この頃から、コースディレクター等とポリシー・ペーパーのテーマ検討も始めます。

#### 7月下旬～9月 〈夏学期〉

例年この時期に開催される「医療政策短期特別研修」にて、中央省庁や医療現場の実践で活躍する医師や看護師など、多彩なゲストスピーカーの講義を聴講します。またポリシー・ペーパーの執筆に向け、必要な情報やデータの収集・分析、文献の研究などを行います。

#### 10月～1月 〈秋学期〉

多くの時間をポリシー・ペーパーの執筆に費やします。指導教官の下、執筆に際して必要なアンケートや、各地の現場等へ赴いてのヒアリング調査も多くの学生がこの時期に行います。ペーパーの提出は例年1月末であり、年明け頃からは論文執筆の追い込みの時期となります。

#### 2月～3月 〈冬学期〉

ローカルガバナンスコース全体でのポリシー・ペーパーの発表会が行われ、それぞれが研究成果のプレゼンテーションを行います。コメントなどを踏まえ、ペーパーの最終版を仕上げます。最終版提出後、必要な単位の取得が確認されたら、修士(政策研究)の学位及び医療政策コースの修了証を授与します。

# 医療政策コースについて

## 1 見識の高い医療政策のプロフェッショナルを養成する

人口減少、少子・高齢化が進む中、医療政策においては矢継ぎ早に改革が進められています。地域医療構想、医師確保・偏在対策、働き方改革などは、個々の課題の困難さに加え、相互に関連する問題であり、都道府県には複雑な連立方程式を解くことが求められています。また、市町村には、介護予防・日常生活総合支援事業の実施や、在宅医療・介護連携の展開など、地域包括ケア体制の構築が求められています。こうした課題は公立病院の改革や、国民健康保険や介護保険といった制度の効率的な運営との両立も視野に入れなければなりません。更にはこの間のパンデミック対応の反省を踏まえた保健・医療部門の改革も、トップ・アジェンダに浮上しています。

よって、自治体で医療政策に携わる人材には、政策の体系的な理解に加え、最新の動向を把握しつつ課題の本質を見極め、ステークホルダーと議論を重ねて共通の理解を形成した上で、的確な政策を展開する能力が求められます。またそうした人材には、医療・保健・介護に限らず、福祉・住宅・雇用・まちづくりといった関連施策を視野に入れた、総合的な施策の形成能力も必要となります。医療政策コースでは、以下のような学びの機会と懇切丁寧な指導を通じ、医療政策のプロフェッショナルを養成しています。



充実したポリシー・ペーパーの作成

## 2 「深く、広い、テイラーメイドの」学びを提供する

### 1. 医療政策を「深く」学ぶ

医療政策の理論と実務に通暁した教授陣や講師により、歴史的経緯や現状と課題、国際的な動向等について、理論的かつ体系的な講義や演習を行います。

### 2. 医療政策を「広く」学ぶ

医療政策の理解と実践に必要な社会保障政策や地方行財政制度、経済学や政治学、データ解析手法等について、幅広く習得するカリキュラムを提供します。

### 3. 医療政策を「テイラーメイド」で学ぶ

ポリシー・ペーパー（修士論文に相当）の作成に際しては、学生の関心や派遣元のニーズを踏まえたテーマ設定を可能としています。ポリシー・ペーパーの作成過程を通じ、政策立案時に求められる論理的かつ視野の広い考察と、説得力のある説明を行う能力が培われます。

### 3 学生間で切磋琢磨できる環境

医療政策コースは、医療政策を体系的に学び、それを将来の実践に役立てたいと希望する全ての方に門戸を開いています。具体的には、

- 現在または将来において、医療政策の総合的な企画立案を担うことが期待される都道府県・市町村の職員の方、
- 民間団体や医療機関、医療法人で、医療政策の動向や経営論等を総合的に学び、将来戦略に活かしたいとお考えの方、
- 官公庁や研究機関、コンサルティング会社等で、日本の医療政策を体系的に学び、途上国の医療制度の構築支援に役立てたいとお考えの方、

などが、自身の興味関心に即し学ぶことができる環境を用意しています。また講義においては医療政策コース以外の学生とも机を並べ、ディスカッション等を行います。さらに世界60カ国※、地域からの留学生とともに英語で行われる講義の履修も可能であり、多様なバックグラウンドを有する内外の仲間と切磋琢磨しながら、自身の見識を深めることができます。

※2021年5月現在



Photo : Masao Nishikawa

### 4 充実のカリキュラム

公共政策プログラムのカリキュラム(科目)は次の通りですが、医療政策コースの指定科目は青文字の部分です。

必修科目(4単位)	政策論文演習(ポリシー・ペーパーの作成)
医療政策コース 指定科目(10単位)	医療政策論、社会保障総論、医療経営論、 医療政策特論Ⅰ、医療政策特論Ⅱ(以上、すべて2単位)
選択必修科目(8単位)	ミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学、計量経済学、費用便益分析、政策過程論、行政の改革・革新と政策評価、The World and the SDGs、GRIPS ForumⅠ・Ⅱ、データサイエンス基礎、政策科学のためのデータサイエンスと情報数理Ⅰ、計画と評価の数理、実践データサイエンス、政策科学のためのデータサイエンスと情報数理Ⅱ、行政法の基礎
選択科目	地方行政論、地方財政論、地方行政特論、地方財政特論、自治体改革論、食料・農業・農村政策概論、地方自治と行政学、日本政治と理論分析 ほか
その他	英語で提供される科目の受講も可能です

※科目内容は準備中のものであり、予告なく変更になる可能性があります。

医療政策コースの修了要件としては、公共政策プログラム共通の必修科目4単位のほかに、医療政策コースの指定科目として10単位を取得し、医療政策に係るポリシー・ペーパーを作成する必要があります(公共政策プログラムの修了には、以上の14単位のほか、選択必修科目より8単位以上と選択科目を含め、合計30単位以上の取得が修了要件となります)。修了者には、修士(政策研究)の学位および医療政策コースの修了証を授与します。



## 入試情報

- 出願するための資格 …… 学士の学位を有するか、2023年3月末までに取得見込みの者等
- 選抜の方法 …… 第1次審査は書類選考、第2次審査は面接
- 入学者選抜の方法 …… 2023年度の入学生のための試験日程は、次のとおりです。

	第1回	第2回
出願受付期限	2022年10月14日(金) 17時	2023年1月6日(金) 17時
第1次審査結果発表	2022年11月4日(金)	2023年2月2日(木)
第2次審査(面接)*	2022年11月10日(木)または11日(金)	2023年2月8日(水)または9日(木)
第2次審査結果発表	2022年11月24日(木)	2023年2月24日(金)

\*書類選考で必要と判断された者には、課題提出を課す場合があります。

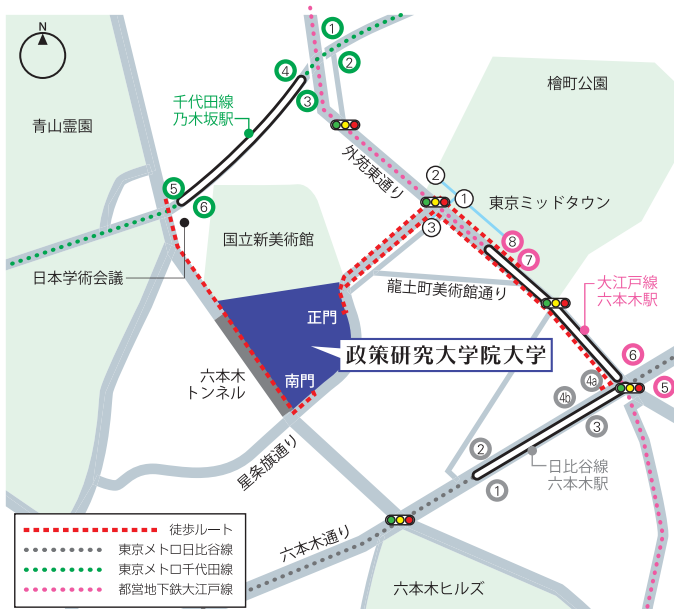
## 学費(予定)

検定料	30,000円	入学料	282,000円	授業料 (年額)	642,960円
-----	---------	-----	----------	-------------	----------

※詳細については「修士課程国内プログラム学生募集要項」を参照してください。

※学生募集要項は、本学ホームページ(<http://www.grips.ac.jp/>)に掲載されます。

## アクセス



- 問い合わせ先 …… 医療政策コースの内容についてのお問い合わせは、下記までお願いいたします。

国立大学法人 政策研究大学院大学

公共政策プログラム 医療政策コース

〒106-8677 東京都港区六本木7-22-1 Tel : 03-6439-6290 Fax : 03-6439-6040

Email : [iryous-seisaku@grips.ac.jp](mailto:iryous-seisaku@grips.ac.jp) URL : <http://www3.grips.ac.jp/~healthcarepolicy/>

